

地域密着型金融の取組事例について

 タイトル 有畑小学校の食農教育活動 JA名 JA十和田おいらせ(青森県)

1 動機 (経緯)	食卓に至るまでの一連の稲作体験および馬鈴薯植付作業をもとに、作業過程および多面的機能を学んでもらうとともに、米又は馬鈴薯に関する理解と農業へ感心をもってもらうため、JAから町内の小学校へ打診したのがきっかけでした。 現在では、稲作体験は有畑小学校全学年、馬鈴薯については1・2・3年生を対象とした恒例行事となり、毎年約50名の児童及び保護者で賑わっています。
2 概要	稲作体験(面積:8a、品種:アネコモチ) 対象:有畑小学校全学年 5月下旬:田植え(保護者と一緒に手植え作業) 10月上旬:稲刈り(保護者と一緒に手刈り作業) 11月下旬:収穫祭(体育館にて保護者と一緒に餅つき) 馬鈴薯植付体験(面積1a種:メークイン) 対象:有畑小学校1・2・3年生 6月上旬:植付作業(指導者・近所の方の協力のもとに手植え作業) 9月上旬:収穫作業(指導者・近所の方の協力のもとに手堀り作業) 11月下旬:収穫祭(体育館にて保護者と一緒にふかしイモの試食)
3 成果 (効果)	スーパーや食卓でしか見ることがなかった、白米や馬鈴薯について、生育過程や作業過程を知ることができました。 「自らが育てたものを食べる」ことにより、「大事に」「残さず」といった、食べ物を大切にする児童の意識の変化が見られるようになりました。
4 今後の 予定(課題)	今後も学校と連携しながら、活動を継続したいと思います。